

平成26年度市民まちづくりフォーラムにおける参加者のご意見・ご提案に関する考え方について

テーマ①: 107万人で防災～107万人の「防災人」づくり

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	今後も体験型の学習やワークショップ、保護者参加型の防災訓練の実施について一層の推進を図ることを提案する。	各学校では、新たな防災教育に関して、学校、地域の実態に応じた年間指導計画を作成し、教科や総合的な学習等をとおして地域を素材にした学習の実施や、学校と地域が連携し、独自の防災訓練等を工夫し、実施しています。今後も各校の取組の充実に向け、指導・支援を図っていきます。
2	顔の見える地域作りが重要。地域のつながりができるような環境育成にも配慮して欲しい。地域の企業を巻き込む活動も必要。学校、行政、民間企業とSBL（地域防災リーダー）が協力し、災害に備えながら、「顔の見える地域づくり」をすすめてはどうか。	地域特性にあった企業等との連携の重要性を地域防災リーダー（SBL）の養成講習のカリキュラムにも盛り込み、今年度よりSBLの情報を地域だけでなく、学校にも提供することとしており、これからも、学校・地域・SBL等の「顔の見える地域づくり」をすすめていきます。
3	防災に取り組んでいる町内会組織や防災リーダーのPRを多くして欲しい。	市ホームページへの掲載をはじめ、町内会での研修会や地震防災アドバイザーによる紹介などを通し、幅広くPRに努めていきます。
4	市の取り組みを一部の人だけが知っているということではダメ。様々なメディアを活用することも必要。	ホームページや各種広報誌を利用するなどして、積極的にPRに努めていきます。また、新たな防災教育に関して、今後も教育委員や学校のホームページの活用により、取り組みの周知に努めていきます。
5	地域に依存しすぎているので、市、地域それぞれの立場で取り組む役割を明確にして欲しい。地域や教員だけではなく、広い人材の活用も考えられる。	地域特性に応じて、「顔の見える地域づくり」をすすめ、連携し様々な取り組みに努めていきます。また、各学校では、独自に防災講話や防災訓練等で関係機関から講師を招いたり、大学の専門機関から様々な示唆をいただき防災教育に取り組んでいます。今後も人材の活用にも努めていきます。

テーマ②: みんなにやさしい自転車利用環境づくり

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	自転車のマナー違反が多いのは、ルールの周知が徹底されていないためと考えられる。購入時のレクチャーや指導者を増やし、CMやフェイスブックなどのインターネットを活用したPRをしてはどうか。	利用者が自転車は「車両」との認識を持ち、ルール・マナーを正しく理解することが重要と考えています。これまで、春・秋の交通安全運動や交通安全教室などの機会をとらえ、チラシの配布や、街頭指導などにより周知を図っていますが、今後はさらに、関係機関との連携のもとホームページを充実させることなどにより広くPRしていきます。
2	放置自転車などの問題は、駐輪場が足りなかったり、場所がわからなかったり、使いづらいことがあげられる。駐車場の利用料金をポイント制にしたり、中心部の民間ビルが設置している駐輪場をもっとPRしたりして、駐車場を使いたいという意識を高めるのが良いと思う。	駐輪場の整備につきましては現在地下鉄東西線の開業にあわせ、各駅出入口付近に整備しています。一部の物販ビルでは一定額買い物をすると市営駐輪場の利用券を配布しており、周辺の放置防止にあわせて自転車利用者にお知らせしています。今後もホームページによる広報や駐輪場マップの配布など、駐輪場のPRに努めていきます。
3	事故を起こした際の「賠償保険」を義務化してはどうか。運転する人のスキルの違いや、ロードバイクやシティサイクルなど自転車の種類に応じて、保険を区分するのは良い。併せて啓発内容を変える必要がある。	義務化によっても確実に加入するか実効性の担保が難しいと思われませんが、「賠償保険」の加入は、加害事故を起こした際に、被害者に対する損害賠償責任への備えとして有効です。様々な機会を活用し、さらに啓発方法を工夫して、加入を促進していきます。
4	自転車のナンバー登録制は良いアイデアだと思うが、どうであろうか。	ナンバーを見られることで自らの運転に責任を持ち、ルール・マナー遵守に繋がると思われますが、現行の防犯登録制との関係など、一自治体での対応には限界があることや、警察や自転車販売業界との協議も必要となるなど、実現に向けての課題も多いのが現状です。喫緊の対応は難しいと考えていますが、今後ご提案の内容についても情報収集を行いながら、ルール・マナーの向上に資する取り組みに努めていきます。
5	駐輪場が地下にあたり、二段になっていて、年配者には使いにくい。利用者が使いやすいように工夫すべき。	都心部における駐輪場は、まとまった用地の確保が難しいことから、道路の地下に整備を行ってきていますが、主に短時間の利用に対応するために、幅の広い歩道上に路上駐輪場の整備も併せて取り組んでいます。また、駐輪台数を確保するため、二段ラックを設置している状況にありますが、二段ラックへの入庫の困難な場合などにおきましては、駐輪場の管理人が対応するようにしています。今後ご指摘の内容を踏まえて利用しやすい駐輪場の整備に努めていきます。
6	自転車はエコで環境に優しい。「杜の都」のブランドイメージの中に自転車を組み込んでみてはどうだろうか。	「杜の都環境プラン」などにおいても、自転車はエコで環境に優しい乗り物と位置づけ、利用を推奨しています。今回『「杜の都」のブランドイメージと自転車が似合う』という貴重なご意見を頂きましたので、今後施策への取り入れ方について検討していきます。
7	施策は良いが、周知されていないのが現状だと思う。もう少し積極的にPRしても良いのでは。	市政だより、ホームページ等様々な媒体を通じたPRに加え、今回の市民まちづくりフォーラムや交通安全教室などの参加型のイベントなどを通してPRに努めているところです。一方で、情報に触れる機会が少ない方に対して周知する必要がありますが、どのようなPR方法が効果的なものになるか、いろいろと研究しながら実施していきます。

テーマ③: 高齢者がいきいきと活躍するまちづくり

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	介護予防自主グループ支援事業などの取り組みは評価できるが、このような事業の市民へのPRが不足しているのではないかと。65歳以下、前期高齢者、後期高齢者など、年代ごとに異なる関心や状況に合わせて周知させる工夫が欲しい。	介護予防月間等のイベントでのPRなど、ご意見を参考に様々な年代への周知を工夫していきます。
2	趣味や就労、社会奉仕活動など、生きがいには個人差がある。より多くの人の社会参加につながる施策や地域の取り組みや活動団体について、データをきめ細かく収集し、隅々まで情報を知らせる工夫が必要だ。市町村やNPO、個人が作る小さな団体までネットワークをつなげて、広報を上手く使ったり、声掛けしたりしてはどうか。また、多くの人が社会参加したいと思うようになるには、企画力があり、人を集められるリーダーづくりが必要だ。	地域での支え合いを進めるため、地域でのNPOやボランティアの活動状況について実態把握を行うとともに、活動の状況について、情報共有を図り、地域の方々のネットワークを構築し連携を進めるための工夫をしていきます。また、ボランティアの養成を進め、地域で活動の核となる人材の確保に努めていきます。
3	様々な施策アイデアも一部の方だけのものであるという印象がぬぐえない。市民全体もしくは弱い立場の方々が活用できるものであってほしい。	高齢者保健福祉サービスの実施にあたっては、真に必要なとされる方がサービスを受けることができるよう図っていくとともに、各種施策及びサービス内容の周知に努めていきます。
4	次世代の子供たちに年上を敬う気持ち、弱い者を助ける思いやりの気持ち等をあきらめずに伝える。他者と関わり合い助け合うことの心地よさを特に若い方々に広めて欲しい。	高齢化の一層の進展に伴い、地域で高齢者を支え合う体制をつくっていくことが求められておりますことから、世代間交流などの事業をはじめ、若い世代に対する啓発を進めていきます。
5	高齢者を活用していく手段も話し合いたかった。高齢者に地域、学校等で活躍の場を作って、生き生きさせてほしい。	高齢者が地域で支えられるだけでなく、支える担い手として活躍することは今後ますます重要であり、老人福祉センターや老人クラブの活動における児童館での世代間交流など、高齢者が活躍する場をひろげていくよう、努めていきます。
6	市の施策の方向性や実施状況は良い(総合的体系)はOK。各施策事業(施設や人、費用)と対局にある市民、各市民団体、ボランティア団体とのネットワークづくり(経費がかからない方法での施策)に工夫があると施策の効果が上がるのでは。	地域での支え合いを進めるには、地域における民生委員児童委員、地区社会福祉協議会、町内会、老人クラブ、NPO、ボランティア団体の連携が不可欠であり、ネットワークを構築することでより密接な連携を図るよう、努めていきます。
7	敬老乗車証は大事だと思います。外へ出る機会に必要なのではないのでしょうか。	敬老乗車証制度は、高齢者の社会参加を促進する重要な施策の一つとして実施し活用いただいております。引き続き、この制度を適切に運用していきます。

テーマ④:「子育て応援社会」の実現

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	保育所での保育と幼稚園での教育を分けることなく、両方の機能を一体的に行うことができれば良いのではないかと。保育・教育施設に求めるのは、「小さいころから人と交わることができる場所」「食育など勉強以外のことを学べる場所」「保護者と子育ての情報を共有できる場所」であり、多様な子育ての場や支援組織が増えることが大切だ。	共働き家庭の増加や就労形態の多様化などに伴う保育ニーズの高まりと多様化、家庭における子育て支援のニーズへの的確な対応のため、幼稚園と保育所の機能を併せ持つ認定こども園の普及を行っていきます。 また、保育所でも教育を行っていることや幼稚園でも長時間の預かり保育を行っていることについて周知に努めていきます。 さらに、すくすくサポート事業や子育て支援ショートステイといった、在宅子育て家庭も利用できる一時的な預かりサービスなど、多様なサービスの充実を図ります。
2	支援センターに積極的に行けない、子育てに対する意識の低い親をどうやって孤立させずに支援の輪に入れることができるか。顔の見える関係が重要だと考える。	乳幼児健康診査等を未受診の児童と保護者に対し電話や訪問による支援を行ったり、民間事業者による育児ヘルパーの派遣や専門指導員の訪問相談を充実させていきます。 また、子育てふれあいプラザや地域の拠点と位置づけた公立保育所、子育て支援センター・支援室、学校等を拠点とし、地域における子どもと子育て家庭が交流できる場を充実させ、育児不安の軽減と子育て家庭の孤立化の防止を図ります。

テーマ⑤:「ウェルカム！仙台・東北」でおもてなし

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	仙台は東北旅行の最初または最後の1日に立ち寄るゲートウェイであることが分かった。友人・知人が来仙した際は、多くの方がそれぞれミニ観光大使のような経験をしていると思うが、さらに仙台を楽しめる情報を共有し、知識を高める機会が欲しい。仙台のイベントや魅力を紹介する常設のミニ博物館のようなものがあれば、いつでもそこに案内でき、情報発信がしやすいのではないかと。	ミニ博物館のような施設については、あり方も含め検討が必要ですが、おまつりの魅力や観光ポイントの紹介など仙台の魅力が観光客にしっかりと伝わるよう、観光案内所の充実や今ある施設を活かしながら、より良い発信方法を考えていきます。
2	国際会議参加者の多くは家族連れで仙台を訪れると思われるので、仙台の食を楽しんでもらいたい。例えば、仙台の野菜を料理して食べる体験型の農家レストランなどはどうか。	農作物の収穫体験を行っている農家レストランは今の所ありませんが、国連防災世界会議の開催に合わせて実施するスタディツアーでは、農家レストランで昼食をとるコースを設定したところです。 今後、店の意向や受け入れ体制などを踏まえつつ、収穫体験の実施につきましても店側に提案していきたいと考えています。
3	案内する側も地元の魅力や情報を仕入れて学ぶ事が重要。全体的に情報が市民に行き渡っていない。学校などでPRしてみてもどうだろうか。	地元の方にも地元の観光情報が伝わるよう、様々なメディアで情報発信を行っていますが、あまり市民の皆様が目にも留まらないのが現状です。市民の皆様に関心を寄せていただくための仕掛けや工夫が必要であり、学校でのPRの可能性も含め、若い世代に伝える手法についても研究し、効果的な広報に努めたいと思います。
4	仙台の観光を盛り上げるのはとても重要だと思うが、増加した観光客を受け入れるインフラが整っていないように感じる。観光客が移動に費やす時間を減らすための対策が必要。	仙台の観光名所を巡る周遊バス「るーぷる仙台」や移動に便利なコミュニティサイクル「DATE BIKE」、新たに開業する地下鉄東西線などの資源を組み合わせた周遊の仕組みをつくり、PRを行っていきます。

テーマ⑥：地下鉄東西線を活かしたまちづくり

No.	ご意見・ご提案	考え方
1	(地下鉄南北線を含む)駅の近くにはスポーツ施設が多い。自分がスポーツをするときやプロスポーツを観戦するときに利用することで、他の乗客にも仙台のスポーツ環境について伝える役割を担えるのではないか。	地下鉄の新たな側面をご提案いただいたものと思います。 そのような視点もあるということ踏まえながら、東西線とその沿線の情報をより効果的に発信する方法を模索していきます。
2	観光利用を増やすために、マップや駅内の看板、デジタルサイネージを使って周辺のお店の情報を知らせる。また、駅ごとにコンシェルジュを置くのはどうか。Wi-Fi環境を整え、情報を入手しやすいアプリの開発も考えられるのではないか。	駅において周辺の情報を手軽に入手できることは、駅を訪れる人にとって、とても便利なものであり、また、駅に人を惹きつける魅力にもなると考えられます。 現在、市民活動の一環として、薬師堂駅などの駅周辺のマップが作成されています。また、東西線沿線の情報誌「まっくる」の発行などもしていますが、いただいたご意見も踏まえつつ、その他の情報発信の方法について検討していきます。
3	例えば、「子どもたちの夏休みの宿題は地下鉄に乗って完成させる」という企画を立ててはどうか。宿題のために博物館や美術館などに割引キップで行けるほか、大学生を巻き込み、地下鉄で講師をしてもらうなどして、地下鉄利用で宿題が完成したら面白いのでは。	地下鉄を介して地域と子供、学生を結ぶユニークな企画であると思います。 今回のご提案を参考にさせていただきつつ、東西線を活用した様々な企画を検討していきます。
4	今まで知らなかった施策について知ることができた。広報活動が大切なのではないか。関心の低い人にどうやって知ってもらうかが問題。	現在、東西線や東西線沿線のまちづくりに関する取り組みについて、HPや市政だよりに加え、様々なイベントや東西線情報誌「まっくる」等により発信しているところです。開業に向け、より多くの人に情報が伝わるよう工夫しながら、広報活動に取り組んでいきます。
5	JR線沿いの人もわざわざ乗りに行きたくなくなるような地下鉄東西線にしたい。特に行事のない通常の日でも乗ってもらえるような楽しさを作り上げたい。	何気ない日常においても乗ってもらえるような地下鉄にすることが理想であると考えます。 そのため、東西線沿線における既存の資源について広く情報発信するとともに、新たな資源や人材の発掘を通して、訪れて楽しい、歩いてみたくなるまちづくりを進め、また、地域主体の取り組みを支援し、地域特性を活かしたまちづくりを進めることにより、新たな魅力の創出へ向け、引き続き取り組んでいきます。
6	車を使えない交通弱者・高齢者を郊外からまちなかへ集める取り組みが重要である。	間もなく到来する人口減少高齢化時代を見据え、都心拠点や都市軸に多様な都市機能を集約する機能集約型市街地形成を進めています。 そのため、東西線沿線においては、スーパーや飲食店、医療施設などの生活サービス施設や高齢者向け住宅などの立地誘導や、駅までの主要道路のユニバーサルデザイン化や駅出入口からホーム階までエレベーターやエスカレーターの設置など移動しやすい環境を整えることにより、車を利用できない人や高齢者が安全安心に暮らせる街の創造を進めていきます。